

※1月23日(金)情報解禁

SPAC、「SHIZUOKA せかい演劇祭」開催決定！演目一部発表

会期：2026年4月25日[土]—5月6日[水・休]

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほか

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、今年も国内外の優れた舞台芸術作品を紹介する「SHIZUOKA せかい演劇祭」(WORLD THEATER FESTIVAL SHIZUOKA)を開催いたします。会期は4月25日(土)~5月6日(水・休)。

劇作家・石神夏希の新作『うなぎの回遊 Eel Migration』をはじめ、社会を映し出す演劇や、内なる声に深く潜るダンス、表現の可能性を押し広げるパフォーマンスなど、とがり合う「せかい」を想像する作品が静岡に集結。それぞれの作品が響き合い、複数の視点が交差することで見えてくる現在地——誰かと話したくなる、思考がひらいていく——そんな対話のきっかけが生まれる、ひらかれた祝祭の場が立ち上がります。

1月23日解禁の上演作品一部(3作品)と、「ストレンジシード静岡 2026」の開催を速報としてお知らせします。

演劇 | 日本初演

『うなぎの回遊 Eel Migration』

- ▶台本・演出：石神夏希 Text and direction: ISHIGAMI Natsuki
▶音楽：棚川寛子 Music: TANAKAWA Hiroko

静岡に暮らすブラジルルーツを持つ地域住民をメインキャストに迎え、劇作家の石神夏希がSPACの俳優と共に一年に及ぶリサーチと対話から創る新作パフォーマンス。産卵のため日本から約3,000kmも離れたマリアナ諸島沖の深海へと旅をするうなぎの生態と、さまざまな理由で海を超え移動を繰り返す人々の姿を重ね、生み出される寓話的フィクション。



『うなぎの回遊』 Photo by SUZUKI Ryuichiro

石神夏希 ISHIGAMI Natsuki

劇作家。国内外で、都市や人々の暮らし、コミュニティのつながりに目を向けた演劇やアートプロジェクトを手がける。ディレクションの仕事として「東アジア文化都市 2019 豊島」舞台芸術部門事業ディレクター、ADAM Artist Lab 2019 (台北) ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター (21年度) 他。SPACでは、『弱法師』(作：三島由紀夫)、『お艶の恋』(原作：谷崎潤一郎『お艶殺し』)、 「ふじのくに」せかい演劇祭 2024にて『かちかち山の台所』を作・演出。「SPAC 秋のシーズン 2025-2026」よりアーティスト・ディレクターとして、SPACのプログラミングに携わる。



Photo by MAKITA Natsumi (F4,5)

演劇・現代サーカス・ダンス | 日本初演

『Qui som?—わたしたちは誰?』 Qui som?

- ▶作：カミーユ・ドゥクルティ、ブライ・マテウ・トリアス
Authors: Camille Decourtye, Blai Mateu Trias

フランスとカタルーニャの俳優、ダンサー、クラウン、ミュージシャン、陶芸家らによって2000年に結成されたパロ・デヴェル。ユーモアと生命力にあふれ、観客にひらかれた圧巻のパフォーマンスは2024年のアヴィニオン演劇祭で話題をさらった。「これから来る世界」へ誰かとともに旅に出るための勇気をくれる。



『わたしたちは誰?』 ©Christophe Raynaud de Lage

報道機関からのお問い合わせ先：

SPAC-静岡県舞台芸術センター広報：坂本・計見・村上 TEL：054-203-5730 (静岡芸術劇場) / E-mail：koho@spac.or.jp

ブライ・マテウ・トリアス Blai Mateu Trias

バロ・デヴェルの創設者で、同劇団では作・パフォーマーとして全作品の作品に携わる。クラウンの両親のもとにバルセロナで生まれる。複数のサーカス団での経験を通して言語の交差性に興味を持ち、16歳でサーカスアートを学ぶため渡仏。自身のリズムと空間感覚がユニークな振付作品を生み出している。



カミーユ・ドゥクルティ Camille Decourtye

ブライ・マテウ・トリアスとともにバロ・デヴェルを立ち上げ、これまで発表した全ての作品の作・パフォーマーを務める。幼少期を馬と共に過ごし、旅した経験から国立サーカス学校に入る。現在も動物たちとの繋がりと協働を磨き続けている。

演劇 | SPAC 作品

『王女メデシア』 MEDEA

▶台本・演出：宮城聡 Text and direction: MIYAGI Satoshi

▶音楽：棚川寛子 Music: TANAKAWA Hiroko

1999年に初演され、世界20都市以上を巡った宮城聡の代表作、16年ぶりの再演。古代ギリシアの壮大な「子殺し」の悲劇を明治時代の日本に舞台を移し、歓楽街の座興で演じられる劇中劇として再現する。悲嘆、裏切り、復讐の物語に鮮烈で力強い視点をもたらす本作は、2025年ロンドン公演で観客を熱狂の渦へと巻き込んだ。



『王女メデシア』 Photo: UCHIDA Takuma

宮城聡 MIYAGI Satoshi

演出家。1959年東京都生まれ。東京大で演劇論を学び、90年にク・ナウカ旗揚げ。2007年にSPAC-静岡県舞台センター芸術総監督に就任。自作の上演とともに世界各地から現代社会を鋭く切り取る作品を紹介、また中高生鑑賞事業やSPAC演劇アカデミーなどの育成活動にも力を注ぐ。代表作に『王女メデシア』『マハーバーラタ』『アンティゴネ』など。近年はベルリン国立歌劇場などでオペラの演出も手がける。19年仏芸術文化勲章シュバリエ受章。23年にグランシップ館長就任。25年7月、対談集『演劇脳とビジネス脳』（西村真里子編）を出版。



Photo by KATO Takashi

[ふじのくに野外芸術フェスタ 2026] 主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2026」

Street Theatre Festival STRANGE SEED SHIZUOKA

5月3日[日・祝] ~ 5月5日[火・祝]

会場：駿府城公園、青葉シンボルロードなど静岡市内

緑ゆたかな公園、にぎやかな商店街、歴史ある建造物…静岡市街地を舞台に、無数の“なんだ？”を生み出すストリートシアターのフェスティバル。日常の風景を一変させるパフォーマンスに加え、大人も子どもも楽しめるワークショップも。

*詳細、ラインアップは別添「ストレンジシード静岡 2026」のリリースをご参照ください。



<https://strangeseed.info>

ダンス | 国際共同製作

ピース & クワイエット

『Peace & Quiet』

▶振付・演出：鈴木ユキオ 共同演出：ルーシー・ベネット

振付家・鈴木ユキオと、障害のあるダンサーが所属するイギリスのストップギャップ・ダンス・カンパニーとの国際共同制作作品。プロフェッショナルなダンサーたちが刺激を与え合い生まれる新しいインクルーシブダンス。



現代サーカス | 日本初演

ワンショット

『One Shot』

▶コレクティブ・プロトコル

公共空間で即興的パフォーマンスを行うフランスの現代サーカス/ジャグリング集団、コレクティブ・プロトコル。2012年からさまざまな場所で上演されてきた再現不可能なパフォーマンス「ワンショット」を日本初演する。



[ふじのくに野外芸術フェスタ 2026] 主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

報道機関からのお問い合わせ先：

SPAC-静岡県舞台芸術センター広報：坂本・計見・村上 TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場）/E-mail：koho@spac.or.jp

■ SHIZUOKAせかい演劇祭

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)では、1999年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第2回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、初代芸術総監督・鈴木忠志のもと2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、2007



年から芸術総監督・宮城聰に引き継がれ、SPACが活動15年目を迎えた2011年から名称を「ふじのくにせかい演劇祭」に変更。2016年より「ふじのくに野外芸術フェスタ」と同時開催。「ふじのくに(静岡県)と世界は演劇を通して、ダイレクトに繋がっている」というメッセージのもと、静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い交流する—そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流(ふじのくにせかい)」を理念としてきました。SPACが財団設立30周年を迎えた2025年に名称を「SHIZUOKA せかい演劇祭」に変更。「SHIZUOKA」と「せかい」が一体(=)となり、隣り合う人々が互いの「せかい」を共有できるハレの場を目指しています。

■ SPAC(Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聰が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。2025年に設立30周年を迎え演劇を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、企業やコミュニティと連携しながら、福祉・観光・人材育成など地域の活性化に活用するべく活動を発展させています。

[SHIZUOKA せかい演劇祭 2026]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センターほか

お問い合わせ Contacts

SPAC-静岡県舞台芸術センター 〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

TEL : 054-203-5730 FAX : 054-203-5732 E-mail : mail@spac.or.jp

◆「SHIZUOKAせかい演劇祭 2026」の最新情報は・・・

プレスリリース、SPAC公式サイト、演劇祭 2026 特設サイトにて、随時お知らせいたします。

SPAC公式サイト <https://spac.or.jp>

演劇祭特設サイト *ティザーページ1月23日 open | 2月20日 open

<https://festival-shizuoka.jp>



SPACshizuoka



YouTube

@spac_shizuoka

報道機関からのお問い合わせ先：

SPAC-静岡県舞台芸術センター広報：坂本・計見・村上 TEL : 054-203-5730 (静岡芸術劇場) / E-mail : koho@spac.or.jp